

# 実践記録

76

シリーズ

## しおざわのびのび塾

塩沢町公民館

今回紹介する「しおざわのびのび塾」は、塩沢町が平成10年度よりスタートさせた学童対象の体験活動事業です。当初は年間8教室程の講座・教室開催で、国の重要無形文化財指定「越後上布」を取り上げた製作工程体験や雪の結晶作り等の化学実験教室など、主に夏・冬休みやクリスマス等の行事時期に合わせて開催していました。その間、子どもたちのニーズに対応できているかは別として、様々なジャンルを体験活動に取り上げ「子どもたちの居場所作り」「ジュニアリーダーの育成」「異世代交流」などを掲げて開催してきました。

昨年度は、年間延べ72回の教室・講座等を開催しましたが、企画する際必ず悩むことは「学習的」なコン



料理教室の一コマ

セプトをもつ教室・講座を、実際どうやって数(参加者数)に繋げていくかという点です。「のびのび塾」開始から1~2年の参加者数は年間100~150人程でした。これは当町小・中学生の約6%にしかならない人数です。もちろん社会教育事業は、一概に参加者数だけで優劣の判断はできませんが、限られた少数の方々にしか学習の機会を提供できないのは、お互いにとって大変残念なことです。民間会社でも、「定番」商品を持つ会社は不況時にも強いように、「のびのび塾」にも“気軽にだれでも参加できる”「定番教室」を子どもたちに定着させて、まずは「参加すれば楽しい」というイメージを浸透させる必要があると考え、比較的人気のあった「料理教室」を3年前から大幅に増やして開催しています。昨年度の「のびのび塾」全体の参加者数875名のうち541名は、この「料理教室」の参加者です。現在では、月に4回(24名/回)開催に100名程の参加募集をすると、必ずキャンセル待ちが出る人気教室になり、「楽しい」という点では子ども達に認知される教室となりました。しかしこの教室自体、普段家でさせてもらえない包丁や火を使った仕事を体験

するといった“ある意味短絡的”な企画で、目新しさもありません。逆

に言えば、短絡的で「あそび」要素の強い教室だから大勢の参加者が集まるのですが、これを社会教育事業として長期的に継続する意味が果たしてあるのかという疑問も残ります。ですが、このほかの体験教室・講座のほとんどが、参加者招集に苦勞している状況からみれば、年間500人を超す子どもたちの“ナマの声”を聴ける大きなチャンスです。この教室を単なる「料理ごっこ」で終わらせないように、昨年度から「食事教育」をエプロンシアターや寸劇を交えて行なうことをパターン化し、ハイキングや親子参加を取り入れての開催にするなど、その時々の子どもの要望を内容に反映させて充実を図る一方、子どもたちの現状や問題点を収集できる「のびのび塾」の“耳や目の役割”として、その他の教室運営や新規企画段階に効果を齎すようになり始めています。

今年度「のびのび塾」は、野外キャンプ・越後上布体験・囲碁・将棋・読書会・コンサート・料理など年間を通して約1400名の参加者を目標に開催する予定で、料理教室には、新たに老人ホーム慰問を組み合わせるなどして充実を図っていきます。6年目を迎えて、ようやくベースが整いつつあり、これからは本当の意味でのスタートだと考えます。

平成7年度の「隔週学校5日制」から約8年、「学校完全週五日制」導入からは2年が経ちます。「子どもたちを地域や家庭にかえし、地域社会や家庭の教育力の充実」や「子どものたちのゆとりのある生活」を掲げた「学校5日制」導入の主旨からすると、公民館事業に参加する子ども達が増えていくことは、これに相反するものかもしれません。しかし、塩沢町も少子化が進み、子どもが何人もいない地区が増加し、安心して遊べるスペースが減少している状況で、昔のように子ども達が集まって“遊びながら学べる”環境が減ってきていることも事実です。

各地域に、そういった安心して気軽に集える「子どもたちの居場所」が整備・確立されるまでの間は、公民館事業が「遊び感覚で学べる」拠点として、現在よりもっと多くのものを求められるのは必然的な流れであり、悲喜交々の思いが過ります。



野外体験活動